フィールド（現場）からの風 684

宮田守男

地域の観光を支える人材を知ることも大切だ

今から150年近く前の明治9年の1月16日に横浜市に日本初のアイススケート場がオープンした。横浜港近くにあった自らの水田を「氷すべり場」と呼んでスケートリンクにしたのが青木安兵衛さんとの記録が残っている。

昭和30年代に私も近所の水田に河川水を引き込み、氷を作り氷面に積もった雪を竹ぼうきで掃き、下駄の底に苦労してトタンを付けた下駄スケートを作り楽しんだ思い出がある。

知人からの新年のあいさつに白馬村役場在職中に観光事業で大変お世話になった菊池哲男さんから、自らが出演した映画「小屋番KOYABAN～八ケ岳に生きる劇場版」が全国ロードショーになったのでご覧ください。とのうれしい便りが届く。菊池哲男さんは、カメラマン兼ライターとして雑誌の同行取材や個人の作家として撮りためた作品を山岳専門誌「山と渓谷や岳人」に発表するなど、山岳写真家として有名で「白馬SHIROUMA」・「白馬岳・自然の息吹」・「鹿島槍ケ岳五竜岳　天と地の間に」の写真集や白馬の山岳ポスターなどで私達地域の山岳資源の魅力を伝えている。

映画の舞台は「コヤガタケ」と呼ばれるほど山小屋の多い八ケ岳だが、コンビニもない、車もない、自然と向き合う小屋番の過酷な日常、だが過酷を選ぶ理由が山にあると小屋番が語る美しい自然を描き出しているのだろうと期待してしまう。ぜひ、観光の原点が山岳にと感じさせてくれる映画が身近な場所で観賞できる機会を作ってほしいと願う。

大雪警報・大雪注意報などの気象予報が観光地の入り込みに大きく影響する場面が増えている。安全第一最優先は大切だが、予想に反して穏やかな天候になる時には恨み節が聞えてくる。

江戸川柳に「夏草やつわものどもが夢の跡」をもじった「この雪に馬鹿者どもの足の跡」がある。雪が降れば、いさんで雪見に出歩くもの好きをからかった句だ。雪がふれば喜ぶ人と、雪中生活をおもう人とは楽と苦の雲泥の違いがある。災害が予想される気象情報を受け取ったならば、事前に用事を済まして当日は極力交通量の減少に努めるのも大切だ。氷雪の研究家・中谷宇吉郎の「雪は天から送られた手紙」の言葉を残している。一人一人の行動で、地域に幸せを呼ぶ雪の便りとなってほしいと願っている。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

映画に出演する菊池さんの山岳フォトアートギャラリーが白馬村和田野に。ぜひこの機会に作品の鑑賞を